

KANUMA NO MEISHO

鹿沼の名匠

津吹 孝行

しぶき

たかゆき

◆ 建築板金工



津吹 孝行

建築板金工として、神社や仏閣、和風住宅の屋根などを手掛ける津吹孝行さん。板金一筋54年の職人です。

さまざまな素材を扱いますが、特に得意とするのが銅加工。津吹さんの手にかかると、平坦な銅板が美しい曲線に変わります。

神社や仏閣などの屋根の縁に施される伝統的な施工、「唐破風箕甲巻き上げ」。その優雅な曲線は建物に風格を生み出します。

銅の状態は音で分かるという津吹さん。銅板は叩くと固くなるため、なまし(金属に熱を加えて柔らかくすること)ながら加工します。

板と板の接続には「ハゼ組み」を施します。接着剤であるハンダなどは使用せず、板を曲げ、折り込むことで接続する「ハゼ組み」。

接着剤の劣化がないため、200年は持つそうです。

ものづくりの技術を次の世代に伝えるため、後進の指導・育成にも力を注いでいます。ものづくり離れが進む昨今、「つくる面白さ」を知ってほしいと、16年前から鹿沼共同高等産業技術学校で指導を続けています。

「50年以上板金工を続けた今も、仕事が面白いと思う」と話す津吹さん。建築板金以外にも、花器や水差しなどの製作や、府所町の彫刻屋台の竜の目なども手掛けています。

「まだ完璧な仕事はできたことがないね。納得がいかないから挑戦し続けている。生涯現役で頑張りたい」と語る職人の顔には、熱い眼差しがありました。